

上下水道事業 中期経営プラン（令和5～9年度）骨子案に関する
市民意見募集結果及び本市の考え方について

1 市民意見募集の結果

(1) 募集期間

令和4年11月16日（水）から12月15日（木）まで

(2) 御意見数

意見書数：159通 意見総数：436件

(3) 御意見をいただいた方の属性

ア 年齢別

	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	不明	合計
人数	6	30	21	35	29	14	5	19	159

イ 居住地別

	市内在住	市内通勤・通学	その他・不明	合計
人数	117	28	14	159

ウ 提出別

	Webフォーム・メール	郵送・FAX	その他	合計
人数	125	10	24	159

(4) 御意見の内訳

区分	分類※	反映 (A)	同趣旨 (B)	参考 (C)	合計
骨子案全体、背景・課題		6	20	25	51
視点①京の水をみらいへつなぐ		4	90	16	110
視点②京の水でころをはぐくむ		17	63	27	107
視点③京の水をささえつづける		13	87	36	136
その他の御意見		5	3	24	32
合計		45	263	128	436

※ A：後期プラン案に反映するもの

B：骨子案に記載済み又は趣旨に含まれているもの

C：今後の取組の推進に際して参考とするもの

2 主な御意見の要旨及び本市の考え方

(A) 後期プラン案に反映するもの

1 骨子案全体、背景・課題（6件）		
主な御意見（要旨）	反映ページ	本市の考え方
<p>【構成に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な取組を網羅的に示していると思うが、端的にプランのポイントが分かるようにすると市民にも分かりやすく、より良くなるのではないか。 この骨子案では財政的にどうなっていくかが分からない。課題に対する努力が見えるようにしてほしい。 	<p>8 ページ～ 10 ページ、 28 ページ～ 35 ページ</p>	<p>後期プランの概要を端的に分かりやすくお伝えするため、「後期プランで目指すこと」として、ビジョンに示したこれまでの課題や前期プラン期間における新たな課題を踏まえ、ビジョンに掲げる将来像の実現を目指していくことについて図と共に記載します。また、後期プランの特徴を 5 つのポイントにまとめ、冊子後半の具体的な取組へとつながるように構成します。</p> <p>財政面については、ビジョンの財政目標達成に向けた経営基盤強化の取組や今後の厳しい経営見通しを踏まえた取組を記載します。</p>
<p>【将来を見据えた取組に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 次世代の負担を軽減しながら事業を進めていくことを最重要視し、取組を進めてほしい。 子どもや将来の京都に生まれてくる子供のための政策を考えてほしい。 将来のことも考えながら水道を供給してほしい。 	<p>8 ページ～ 10 ページ</p>	<p>基本方針に示した「重要なライフラインである上下水道を守り続けるため各事業を着実に進める」及び「より一層の経営の効率化等に取り組むとともに中長期を見据えた施設マネジメントの取組を推進する」を具体化するため、「後期プランで目指すこと」の 5 つのポイントにおいて、①「上下水道の基本的な役割を果たす」、②「事業を支えるため経営基盤を強化する」、③「上下水道の将来を見据えた取組を進める」等を掲げ、将来世代との負担の公平性を踏まえた事業を推進すること、及び将来を見据えた取組を積極的に進めること等を記載します。</p>

2 視点①京の水をみらいへつなぐ（4件）

主な御意見（要旨）	反映ページ	本市の考え方
<p>【優先順位を考慮した改築更新・耐震化の実施に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各施設の老朽化が進む中、もう少し優先順位の検討も必要である。 管路更新や耐震化は大切だが、過剰に整備することのないよう優先順位を付けてほしい。また、優先する理由をしっかりと市民に説明してほしい。 	8 ページ～ 9 ページ、 12 ページ～ 19 ページ	後期プラン期間における管路・施設の改築更新・耐震化に関する基本的な考え方として、現行水準以上の整備事業費を確保しつつ、将来世代との負担の公平性を踏まえて、より一層優先度を考慮した事業内容・目標に見直すことを記載します。また、「5 事業推進計画」の各取組項目に同様の考え方を記載します。
<p>【広域化・広域連携の推進に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の人口減少等を踏まえると、水道事業についても広域化を進めなければならないことは理解するが、責任の所在が曖昧になったり、水道料金が上がったりするのではないかと心配する。慎重に議論を進めてほしい。 広域化・広域連携を行うことで、料金が高くなったり、変わってしまったりしないか、水道水の品質が変わらないか、事業の一部が民間委託にならないかが、不安に思っている方もいる。市民にさらに詳しく情報を伝えたいので議論を引き続き行う必要がある。 	21 ページ	府内各自治体との広域化・広域連携の取組を分かりやすくお示しするため、「5 事業推進計画」の取組項目に、広域連携については共同研修等を引き続き実施するとともに実現可能な連携の取組を検討すること、広域化については引き続き京都府及び近隣自治体との協議・情報交換を継続し、それぞれの自治体にメリットがあるように長期的かつ幅広い視野であり方を検討することを記載します。

3 視点②京の水でこころをはぐくむ（17件）

主な御意見（要旨）	反映ページ	本市の考え方
<p>【お客さまの声を反映した新たなサービスの展開に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> スマホアプリがどのように役立つのかが分かりにくい。 スマホアプリでのサービス展開のイメージが湧かず、利用者は一部の方限定されるように感じる。 お客さまサービスなどは色々あるありがたいが、コストもかかると思うので、バランスをとりながらやってほしい。 	22 ページ	<p>スマホアプリについては、「5 事業推進計画」の取組項目に、受付システムの集約化や、プッシュ通知機能を利用した情報発信等といったサービス等の概要を記載するとともに、サービス開始時に利便性や機能について分かりやすく広報するように努めます。</p> <p>また、スマホアプリの導入及び運用に当たっては、利便性とコストのバランスに配慮しつつ、最適なサービスを提供できるように努めます。</p>

主な御意見（要旨）	反映ページ	本市の考え方
<p>【琵琶湖疏水の魅力向上の取組に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民にとってのメリットはしっかりと広報するなど、取り組む理由の説明をお願いしたい。 ・市民にとってどのようなメリットがあるかが分からない。 ・琵琶湖疏水はきれいで、京都の観光資源として大事にしてほしいが、料金収入が観光のために使われるのは違和感がある。 	<p>9 ページ、 23 ページ</p>	<p>「後期プランで目指すこと」の5つのポイントの1つに「上下水道事業のより一層の理解促進に努める」を掲げ、市民の皆さまの大切な財産である琵琶湖疏水の魅力向上の取組を行うことで、上下水道事業への関心や理解を深めていただけるよう努めることを記載します。</p> <p>また、「5 事業推進計画」の取組項目において、疏水沿線全域での賑わい創出や周遊性向上に寄与していくこと、国庫補助及びふるさと納税制度等を通じた外部資金の獲得に積極的に取り組むことを記載します。</p>
<p>【低炭素社会の実現に向けた取組に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来的な脱炭素社会の実現も見据えながら取組を進めてほしい。 ・社会情勢として、低炭素、脱炭素社会に向けた取組が注目されているので、大きな施設を持っている上下水道局もしっかり取り組んでほしい。 	<p>9 ページ、 24 ページ</p>	<p>「後期プランで目指すこと」の5つのポイントの1つに「上下水道の将来を見据えた取組を進める」を掲げ、脱炭素の取組を積極的に進めることを記載します。</p> <p>また、「5 事業推進計画」の取組項目において、ビジョンでは「低炭素社会の実現」としていたものを「脱炭素社会の実現」に改めるとともに、環境政策に係る上位計画である「京都市役所CO₂削減率先実行計画」に掲げた目標の達成に向けて取り組むことを記載します。</p>
<p>【循環型まちづくりへの貢献に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下水汚泥の有効利用は国が肥料化等の検討をしていると聞いた。費用対効果や継続的な需要確保の課題があると思うが、環境保全の趣旨からも、幅広く調査研究を進めることを示してほしい。 ・下水処理の際にガスやリンが発生するのであれば、それらを有効に活用する仕組みを導入するとよいのではないか。 	<p>20 ページ</p>	<p>「5 事業推進計画」の取組項目において、「新技術に係る調査・研究の実施」として、下水汚泥の有効利用（肥料利用等）について将来を見据えて幅広く情報収集・調査・研究を進めることを記載します。</p>

4 視点③京の水をささえつづける（13件）

主な御意見（要旨）	反映ページ	本市の考え方
<p>【財務体質強化の取組全般に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上下水道はあって当たり前のように捉えられているが、本当に重要なライフラインであり、将来にわたり安定した事業を行うためには財務体質の強化が必須である。 ・将来世代の負担が重くならないよう、計画的に取り組むべき。また、不測の事態も想定し、余裕を持った事業運営に取り組むべき。 ・企業会計で運営している以上、財務体質の改善強化は当然。無駄は徹底的に省かないといけない。 	<p>28 ページ～ 35 ページ</p>	<p>水需要の更なる減少や更新需要の増大、工事費の上昇等の厳しい経営見通しを踏まえ、建設改良の財源となる積立金を確保するための取組を記載します。</p> <p>厳しい経営環境の中でも市民の皆さまの重要なライフラインである上下水道を未来に継承・発展させていけるよう、あらゆる観点で経営基盤強化に取り組む、事業を着実に推進していきます。</p>
<p>【独立採算の仕組みに関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上下水道の運営は税金を投入しているのではなく、水道は水道料金、下水道は使用料で賄っていることをしっかり市民に説明すべき。 ・上下水道事業が独立採算で運営されているという基本原則が触れられていないので、市民に分かるように工夫してはどうか。何のために利益を確保しようとしているのかをしっかりと伝えるべき。 ・上下水道の運営にかかる費用は一般会計の中に含まれているものだと思っていたが、一部を除いて独立採算であったことを初めて知った。 	<p>29 ページ</p>	<p>水道事業・公共下水道事業の財政の仕組みに関する説明のページを設け、上下水道事業は独立採算を基本として事業を運営していること、将来世代の負担が大きくなるよう事業を運営するための支出を圧縮し、より多くの自己資金を確保できるよう取り組んでいることについて記載します。</p>

5 その他の御意見（5件）

主な御意見（要旨）	反映ページ	本市の考え方
<p>【骨子案資料に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 冊子が分かりづらかった。 パンフレットの文字が多すぎて書く気をなくす作りになっている。 	<p>8 ページ～ 10 ページ</p>	<p>後期プランの概要を端的に分かりやすくお伝えするため、「後期プランで目指すこと」として、ビジョンに示したこれまでの課題や前期プラン期間における新たな課題を踏まえ、ビジョンに掲げる将来像の実現を目指していくことについて図と共に記載します。また、後期プランの特徴を5つのポイントにまとめ、冊子後半の具体的な取組へとつながるように構成します。（上記「1骨子案、背景・課題」の1点目と同旨）</p>
<p>【数値目標の見直しと施設マネジメントの取組に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標数値を下げなければならない場合でも、レベルの維持、リスク上昇の抑制について、「予防保全」や「長寿命化」等の措置・考え方によって、「施設マネジメント」をしっかりとやっているのに、安全・安心・安定が守られているといった内容の記述が必要である。 	<p>9 ページ</p>	<p>いのちや暮らしを支える重要なライフラインである上下水道を将来にわたり守り続けるため、「後期プランで目指すこと」の5つのポイントの1つに「上下水道の将来を見据えた取組を進める」を掲げ、次期ビジョン以降の中長期を見据えた施設マネジメントの取組を進めることを記載します。</p>

(B) 骨子案に記載済み又は趣旨に含まれているもの

1 骨子案全体、背景・課題 (20 件)	
主な御意見 (要旨)	本市の考え方
<p>【事業の着実な推進に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 財政の厳しい折とは思いますが安心安全の暮らしをお願いします。 ・ これからも皆様の熱いお仕事に期待し、住みやすい京都のまちになるよう協力したい。 ・ 市民にとって水はとても大切なのでこれからもライフラインを守ってください。よろしくお願ひいたします。 ・ 財政状況が厳しい中、大変苦勞をされていることと思う。様々なアイデアを取り入れるなど柔軟な対応を取って、この難局を乗り切ってほしい。 	<p>上下水道事業は、市民の皆さまの安全・安心なくらしを支え、また、事業者の皆さまの事業活動を支える重要な役割を担っており、今後もライフラインを守り続けられるよう、長期的な視点に立った経営を進めることが重要であると認識しています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により水需要が大きく減少し、工事費や電気代等が大幅に上昇するなど、ビジョン策定時には想定していなかった新たな状況が生じており、今後も非常に厳しい経営環境が続くことが想定されますが、後期プランに基づき、徹底した経営努力により事業費の確保を目指すとともに、限られた事業費の中で優先順位を踏まえて事業内容を十分に精査し、事業効果を最大限発揮できるよう、取り組んでまいります。</p>
<p>【安全・安心な水道水の供給に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今までどおりおいしい水を供給してほしい。 ・ 普段から水道直結のウォーターサーバーでマイボトルを用いて京都市の水道水を愛飲している。これからも質の高いおいしい水道水を提供してほしい。 ・ いつもおいしい水をありがとうございます。困難なことも多いかとは思いますが、京都市が誇るおいしい水道水を次の世代へも引き継げるようにこれからもよろしくお願ひいたします。 	
<p>【その他の御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未だに様々な物の値段が高騰しており、きちんと反映して行ってほしい。 ・ 負担を将来に先送りにしないため、利益をこれまで以上に上げる経営ビジョンを立てているとのことであり、その具体的な内容が気になった。 	<p>社会情勢の変化に伴う工事費等の上昇等も踏まえた今後の収支見通しを掲載するとともに、建設改良の財源となる積立金を確保するために取り組む経営基盤強化計画の内容について記載します。</p>

2 視点①京の水をみらいへつなぐ（90件）

主な御意見（要旨）	本市の考え方
<p>【着実な改築更新・耐震化に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水道・下水道は電気・ガス以上に大事なライフラインであり、近年ゲリラ豪雨が頻発し、また、地震等の懸念もある中で、更新・耐震化等は継続して進めてほしい。 財政難と聞いているが、施設の更新や災害対策等本当に必要なところには、経費削減せずに十分に投資してほしい。 管路、施設の改築更新、耐震化は、次世代が負担などで困らないよう計画的に進めてほしい。老朽化の対応は先を見据えてほしい。 災害が増えてきている中で、上下水道などのライフラインが被害を受けた時の影響を考えると、耐震化の事業は私達市民にとっても大変大事なことだと思う。将来のためにもしっかりと取り組んでほしい。 水道・下水道の管路の改築・更新・耐震化は重要。市民生活に影響が出ないよう取組を進めてほしい。 	<p>上下水道は市民の皆さまの生活を支える重要なライフラインであり、管路・施設の改築更新・耐震化を継続して進め、50年後、100年後の未来にしっかりとつないでいくことが重要であると認識しています。</p> <p>事業を取り巻く経営環境がますます厳しくなる見通しの中、後期プラン期間においては、経営基盤強化の取組を進めることで建設改良の財源となる積立金の確保を目指すとともに、これまで以上に事業の優先順位を精査し、リスクを踏まえた改築更新・耐震化を着実に推進します。</p>
<p>【水道配水管の更新に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水道管の更新は継続的に行ってもらい、断水が生じないような安定的な水の供給を実現してもらいたい。 水を届けるのに必要な管路施設の更新はお金を掛けて実施してほしい。 老朽化した水道管が増えているというのは全国的な問題であり、しっかりと更新を進めてほしいが、財源が厳しいのであればバランスが重要である。大きな口径の配水管の更新割合を増やすというのは、理にかなっていると思う。 配水管更新について広範囲に影響を及ぼす箇所から重点的に更新していく必要があることは分かるが、合わせて京都市民の生活環境も守って進めてほしい。 	<p>老朽化した配水管の更新について、布設後の経過年数に加えて、漏水時に断水等の影響が大きい管路や過去に漏水が生じた管路の更新を優先するなど、これまでから優先順位を付けながら効率的に進めています。</p> <p>後期プラン期間は、現行水準以上の整備事業費を確保しつつ、災害等が発生した場合に広範囲に影響を及ぼす口径の大きい配水管の更新割合を増加させるなど、これまで以上に優先度を考慮して配水管の更新を進めることとし、災害時等においても市民の皆さまへの影響を最小限にとどめられるよう、リスクを踏まえた更新事業を推進します。</p>

主な御意見（要旨）	本市の考え方
<p>【下水道管路の改築更新・耐震化に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下水道管路改築・地震対策率と雨水整備率が低いように感じる。近年の異常気象や新型コロナウイルス蔓延による衛生に対する危機意識の増加等を踏まえると、下水道管路の整備や雨水整備をもう少し進めてほしい。 ・下水道管の老朽化は道路陥没の原因となり大事故につながる可能性が大きいので、早期にどんどん改修して行ってほしい。 	<p>下水道管路の改築更新・耐震化について、老朽化した管路や重要な管路の中でも、特に破損等のリスクが高い旧規格の管路を対象として、優先的に対策を進めています。</p> <p>後期プラン期間は、効率的な調査手法を新たに組み合わせることにより、限られた財源の中でも管路の状態把握の充実を図り、長寿命化を更に進めることで、優先度を踏まえた改築更新・耐震化を推進します。</p>
<p>【着実な防災・危機管理の取組に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ地震や花折断層の地震に備え、災害時に上下水道の速やかな復旧を行えるよう、平常時における各種点検整備を強化してほしい。 ・地震などの災害は避けられないので、有事の際の市民への影響を最小限にするため、日頃からハード面での耐震化はもちろん、ソフト面でも水道水備蓄の啓発や防災訓練などを頑張ってもらいたい。 ・防災・危機管理について、今後も民間事業者との連携を強化し、防災訓練を定期的に幅広く実施する必要があると思う。 	<p>上下水道局では、これまでから大きな被害が想定される「花折断層を震源とする地震」、「南海トラフ巨大地震」等の発生時においても、上下水道機能を確保し、市民生活への影響を最小限にできるよう、各種計画の策定や体制の整備等を行うとともに、それらに対応した防災訓練を行っています。</p> <p>後期プラン期間は、近年、全国各地で頻発している地震や浸水の被害も踏まえ、これまで取り組んできた老朽化した管路や施設の改築更新・地震対策等に加え、仮設給水槽等の効果的な配備や災害用マンホールトイレの整備を引き続き推進します。</p> <p>また、民間事業者との連携については、災害時の応急給水の応援に関する協定等を締結しており、今後も合同防災訓練を実施するなど、平時から連携を強化し、災害対応力の更なる向上を図ります。</p>
<p>【飲料水の確保に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害が起こった時に備えて、給水体制をしっかり整えておいてほしい。 ・備蓄の大切さなど、いざという時の市民への啓発をもっとやってほしい。 	<p>上下水道局では、これまでから災害時等においても必要な飲料水を確保できるよう、基幹施設の耐震性の向上や緊急遮断弁の設置、給水車・応急給水槽等の配備を進めているほか、災害用備蓄飲料水「京のかがやき 疏水物語」を活用した啓発等を実施しています。後期プラン期間は、引き続き防災備品の配備や実践的なマニュアル運用訓練等により応急給水体制を強化するとともに、防災啓発パンフレットのリニューアル等による情報発信の充実・強化を図ります。また、地域における防災訓練や自主防災組織等への研修の場を活用し、疏水物語を活用した飲料水の備蓄啓発に取り組みます。</p>

主な御意見（要旨）	本市の考え方
<p>【マンホールトイレに関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> マンホールトイレについて、人口に対して少なすぎると思う。公園などの敷地も利用して、災害時に全ての住民が使用可能な箇所数になるよう増やして欲しい。 マンホールトイレなどの実演をしてほしい。 	<p>災害用マンホールトイレについて、平成 23 年度から、震災時に多数の市民が避難することが想定されている広域避難場所へ、さらに、平成 25 年度以降は、避難所となる小中学校等へ設置を進めています。</p> <p>後期プラン期間においても引き続き、区役所等と調整のうえ、他の災害用トイレによる対応等を踏まえて、災害用マンホールトイレの整備を進めていきます。また、引き続き自主防災組織が参加する防災研修や各行政区等が主催する防災訓練を通じて、災害用マンホールトイレの仕組み等について理解を深めていただけるよう取り組みます。</p>
<p>【浸水対策に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年、毎年のように日本のどこかで大雨による災害が発生しており、市民の財産を守るためにも浸水対策を計画的に実施してもらいたい。 大雨が降っても道路冠水等の被害が減ってきているように感じていたが、上下水道局の対策が効果を発揮しているのだと理解した。御所周辺は今でも大雨が降ると度々道路冠水が起こる箇所もあるので、しっかりと対策してほしい。 予想外の豪雨による浸水被害が各地でニュースとなるが、下水道の整備について観光・環境を守る観点から迅速に進めてほしい。 	<p>近年の台風や局地的な大雨等を受けて、浸水被害を軽減する対策の重要性が高まっており、雨水幹線等の浸水対策施設の整備を進めているほか、雨に強いまちづくりに向けて、各局区が連携して各地域の特性に応じた浸水対策を実施しています。</p> <p>後期プラン期間は、浸水に対する安全度を更に向上させるために、鳥羽第3導水きょ等の浸水対策施設の整備を引き続き実施し、雨水整備率の向上を図ります。また、過去に浸水した地域において引き続き優先度を踏まえた浸水対策を進めるとともに、関係局区によるソフト・ハード両面でのあらゆる対策の連携及び融合の強化を図り、流域全体で効果的かつ効率的な雨に強いまちづくりを目指します。</p>
<p>【広域化・広域連携の推進に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 京都市が先頭に立って、京都府南部の広域化を進めてほしい。京都市が南部の水道を助けたとなれば全国的にも大きな事例となり、京都市が持つリーダーシップのブランド力も飛躍的に向上するのではないかと。 災害が発生した時には各自治体同士の連携が必須になると思われるので広域化・広域連携を積極的に推進してほしい。 広域化について、料金が上がるようなことは嫌だが、まとめてやった方が効率的なことはまとめたらよいと思う。 	<p>広域化、広域連携については、各自治体の上下水道事業が水需要の減少、老朽化した管路・施設の増大、地震等や大雨等の災害への備え、職員の技術継承など、将来に向けての共通した課題を有する中、経営基盤強化のための一手法として長期的な視点かつ幅広い視野で検討を進めていくことが必要であると考えています。</p> <p>後期プラン期間は、広域連携については、本市が有する施設やノウハウを用いた取組や、災害・事故に備えた合同防災訓練等を引き続き実施するとともに、資器材の相互融通等についても検討します。また、広域化については、関連計画に基づき、引き続き京都府及び近隣自治体</p>

主な御意見（要旨）	本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・広域化・広域連携について、小さい自治体はともかく京都市にどんなメリットがあるのか疑問。協力するなら相応の負担を求めべき。 	<p>との協議や情報交換を継続し、それぞれの自治体にメリットがあるように長期的かつ幅広い視野であり方を検討していきます。</p>

3 視点②京の水でころをはぐくむ（63件）

主な御意見（要旨）	本市の考え方
<p>【お客さまの声を反映した新たなサービスの展開に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水道料金等がアプリで確認できるようになると助かる。 ・ガスや電気などのアプリは使用量や料金の変化がグラフなど使っており見やすいのと、ガス機器の点検の予約もネットで簡単なので、同じような仕組みにしてほしい。 	<p>スマホアプリにおいても、現在「みずみるネット」でご覧いただける「使用水量・料金の確認」や「グラフによる表示」等は、引き続きご利用いただけるよう対応することを予定しています。</p>
<p>【広報全般に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上下水道局キャラクターとコラボした広報がおもしろく、毎年見ている。今年のテルマエ・ロマエもおもしろく、次の話が楽しみである。多くの人に水道を知ってもらえると思うので、次の計画でもやってほしい。 ・地下鉄で、お風呂や琵琶湖疏水の広告をよく目にするようになった。取組が多くの人に伝わるのは良いことである。 ・キャラクターを使うのもいいが、お金を掛けず、施設の見学などの地道な広報の取組を大事にしてほしい。 ・今後も、上下水道モニター制度を継続し、より多くの京都市民が上下水道局の仕事の内容を理解できるよう努めてほしい。 	<p>広報活動について、後期プラン期間においても、施設見学会等により上下水道事業への理解を深めていただくとともに、お風呂入浴PR等の水道水を有意義に使ったライフスタイルを提案し、水需要の喚起につなげます。また、上下水道事業に興味や関心が薄い年齢層にも事業に接していただけるよう、引き続き、複数の媒体を連動させたクロスメディア広報の展開を図ります。</p> <p>上下水道モニター制度は、上下水道事業に関する意見や提案を求めるため施設見学や意見交換等の活動を行っています。後期プラン期間においても、WEBモニター制度導入による双方向的な広聴活動等を通じて、広聴活動の充実を図ります。</p>
<p>【水需要の喚起に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水は無駄遣いしてはいけないという認識なので、使用量が減ることで財政が厳しくなるというのは難しいバランスだと思う。無駄遣いではない形で、水の活用が進めばよいと思う。 ・琵琶湖疏水の魅力を発信したところで増収する訳でもないし、市民に水道水をもっと使ってもらえるような広報活動を展開していくべき。 	<p>水需要の喚起について、水道事業・公共下水道事業の果たす役割や、安全・安心でおいしく、環境にも家計にもやさしい水道水の特徴を、より多くの市民の皆様にご覧いただくため、これまでから幅広い媒体とあらゆる機会を活用し、関係部局とも連携しながらPRを行っています。</p> <p>後期プラン期間においても、引き続き、お風呂入浴PR等の水道水を有意義に使ったライフスタイルを提案し、水需要の喚起につなげます。</p>

主な御意見（要旨）	本市の考え方
<p>【琵琶湖疏水の魅力向上の取組に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 琵琶湖疏水通船はすばらしい。更なる魅力向上に取り組んでほしい。もみじの木をもっと沿線付近に植えてほしい。 琵琶湖疏水の魅力をもっと活用すべき。そのために蹴上船溜まりと沿線の公園にトイレを設置してほしい。また、付近には食堂もないため、大衆向け食堂を設けて、快適な観光に備えるべき。 大阪～伏見港までの舟運の復活に合わせて、琵琶湖疏水記念館に所蔵されている当時の資料編纂と濠川を含めて鴨川運河の沿線を一気に通貫で散策が可能なように整備するなど、琵琶湖疏水全体の魅力発信を強化できないか。 	<p>今なお現役施設として京都における産業の近代化の歩みを物語り、市民の皆さまの大切な財産である琵琶湖疏水の魅力発信を進めることで、上下水道事業への関心や理解を深めていただくとともに、文化や景観、観光振興に貢献することを目指しています。</p> <p>後期プラン期間は、疏水路全般の維持管理と整備を継続するとともに、びわ湖疏水船の琵琶湖への航路延伸への支援や市民の皆さまに疏水の魅力を体験していただく市民乗船会の取組を推進します。また、「舟に乗っても、沿線を歩いても楽しめる」琵琶湖疏水のフィールドミュージアム化の取組を、関係する局区や自治体、事業者と連携して推進するとともに、琵琶湖疏水記念館の整備や琵琶湖疏水の魅力を国内外に広く発信する取組等を実施します。</p>
<p>【琵琶湖疏水記念館に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 琵琶湖疏水記念館のテラスは素敵だと思う。子どもを連れてインクラインの散歩に行くことが多い私としては、子どもたちが水道事業に興味も持つきっかけが増えることは、とても望ましいことだと思う。 琵琶湖疏水はとても好きなスポットで、琵琶湖疏水記念館でその歴史を知り、明治の先人達は本当に凄いことを成し遂げたと改めて認識した。市民としても誇りに思う。 琵琶湖疏水記念館について、インクラインの模型が面白く、タブレットが分かりやすかった。一方で、説明文の漢字が小学生には難しいのが少し多かったので直してほしい。 	<p>琵琶湖疏水記念館は、これまで市民の皆さまや観光客、校外学習として来館する小学生など、280万人を超える方々にご来館いただいています。</p> <p>後期プラン期間は、琵琶湖疏水フィールドミュージアムの情報発信拠点として、また、蹴上・岡崎地域における観光拠点として、展示解説等の充実、デッキテラス化やカフェ新設を進めることで琵琶湖疏水記念館の更なる魅力向上を図り、同地域だけでなく琵琶湖疏水沿線全域での賑わい創出や周遊性向上に寄与できるよう取り組んでいきます。</p>
<p>【低炭素社会の実現に向けた取組に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 低炭素社会等について、とても素敵な取組だと思う。 事業コストを抑えながら、環境対策も進めてほしい。 下水処理場や浄水場などの多量の水が流れている所では、小水力発電が可能なのではないか。 	<p>上下水道事業は、その推進に当たり多くの資源やエネルギーを消費し、地球温暖化の原因となる温室効果ガスを排出していることから、本市が進める地球温暖化対策において重要な役割を担っていると認識しています。</p> <p>後期プラン期間は、「京都市役所 CO₂ 削減率先実行計画」における市全体の目標である「2030（令和 12）年までに平成 25 年度比で 46%削減」を見据え、太陽光発電、小水力発電による創エネルギーの取組や高効率機器の導</p>

主な御意見（要旨）	本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・京都市として、低炭素化の取組をおろそかにはできないことは理解できる。可能な限り費用を圧縮したうえで、良いことをしているのだからしっかりと周知をしてほしい。 	<p>入等を継続して実施します。また、省エネ・創エネ型の汚泥焼却炉への改築更新、LED 照明等の高効率照明の採用を進めること等により温室効果ガス排出量の削減を図ります。市民の皆さまへの広報についても、毎年度発行する「環境報告書」等を活用してPRしていきます。</p>
<p>【循環型まちづくりへの貢献に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下水汚泥などを活用するなど温室効果ガス削減に取り組んでいることを初めて知った。資源を再利用できる取組をどんどん進めてほしい。 ・下水汚泥を有効活用する方法を考えるなど、エネルギーを無駄なく活用できるようにしなければならない。 ・下水の汚泥処理の方向性について、一つの処理に偏ることなく、様々な方向で検討してほしい。 	<p>本市では、下水汚泥から発生する消化ガスを都市ガスの代わりとして汚泥焼却炉の燃料等に利用したり、汚泥焼却灰等をセメント原料として再利用する事業を行っています。また、令和 3 年度からは、下水汚泥から固形燃料を作り、火力発電所等で石炭の代替燃料として利用するための下水汚泥固形燃料化施設も稼働開始しました。</p> <p>後期プラン期間は、固形燃料や消化ガスを継続利用するとともに、汚泥焼却炉の改築更新により下水汚泥の持つエネルギーを更に有効活用します。また、新技術の調査・研究を通じて更なる有効利用の方法を検討します。</p>

4 視点③京の水をささえつづける（87 件）

主な御意見（要旨）	本市の考え方
<p>【技術力の向上・技術継承の推進に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術の継承は事業の要だと思うので、しっかり取り組んでほしい。 ・若手職員・中堅職員に対する体系的な技術研修について、特に若手職員はこれから未来に向けて頑張ってもらわなければならないので、ぜひ技術研修を受けるべきだと思う。 ・今後も持続的に事業を運営していくために、職員の世代交代をスムーズに行うとともに技術の継承を確実に行う必要がある。 ・災害から市民生活を守る職員の技術継承は必要だと思う。 	<p>50 歳を超える職員が常勤職員の 4 割を超える中、将来にわたって水道・下水道を守り続けていくためには、事業を担う上下水道局職員の育成を進めていく必要があると認識しています。</p> <p>後期プラン期間においても、採用 5 年目までの職員を対象とした「専門技術研修」や、現場を想定した実技研修を行う体験型研修施設の活用などを継続して実施します。また、新たに中堅職員に対する体系的な研修を実施するなど、取組の充実を図るとともに、これらの取組の成果を見える化して技術力向上・技術継承を一層推進します。</p> <p>さらに、次世代を担う職員の確保に努め、持続可能な事業運営を推進します。</p>

主な御意見（要旨）	本市の考え方
<p>【民間事業者等も含めた技術継承に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術力の向上や技術継承は、上下水道局だけではなく、民間事業者の育成も含めてやってほしい。 ・上下水道局の職員だけでなく、事業者の方々とともに担い手の確保に取り組んだ方がよい。 	<p>ビジョンにも記載のとおり、皆さまの生活を支える水道・下水道を守り続けていくためには、事業者の皆さまと共に技術力の向上や次世代への継承を推進するなど、様々な取組を通じて連携していくことが必要であると認識しています。これまでから事業者の皆さまを対象とした研修などを実施してきましたが、後期プラン期間もこうした取組を継続実施し、将来にわたり良質なサービスを提供できるよう努めます。</p>
<p>【市民の皆さまとの連携に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術研修施設について、市民にも利用してもらうことで防災意識を向上させる取組は評価できる。 ・市民にも、水道の研修施設のアピールをもっとして欲しい。 	<p>これまでから市民の皆さまを対象とした講座や体験型研修施設での研修を実施してきましたが、後期プラン期間においても引き続きこうした取組を継続実施し、市民の皆さまと一体となった事業運営に努めます。</p>
<p>【施設マネジメントの実践に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設マネジメントの実践、財務体質の更なる強化は、これからの人口減少社会の中、非常に重要である。甘く見積もらず、次世代の負担の軽減も重視しながら、プランを進めてほしい。 ・行政として、何かあった時のリスクがあるのは分かるが、大規模改修ではなく、修繕で延命をすることを検討し、コストを抑えてほしい。 ・事業費の平準化を進めるために、事業の「前倒し」は問題ないと思うが、「先送り」は大丈夫なのか。改修等の時機を逸して、水道や下水道が使えなくなるといった事態が生じることのないように取り組んでほしい。 	<p>水需要の減少や施設の老朽化等の課題に加え、新型コロナウイルス感染症拡大の影響や社会情勢の変化に伴う物価高騰など、大変厳しい経営環境の中、限られた財源の中で最大の効果が得られるよう事業の優先順位を設定し、事業量・事業費の一層の平準化を行うことで、これまで以上に管路や施設を効率的・効果的に管理・運営していく必要があると認識しています。</p> <p>令和4年度からは局内にプロジェクトチームを設置し、今後老朽化が進んでいく水道・下水道管路を対象に事業量・事業費の更なる平準化に向けた検討を開始しました。これらの成果については、次期ビジョン以降の更新計画に反映していく予定です。</p>
<p>【財務体質強化の取組全般に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国的に管路や施設の改築更新のお金がないと聞いたことがあるが、京都市は大丈夫なのか心配である。無駄が生じないように進めてほしい。 ・財政が厳しいことを理由に全ての事業を止めることは避けてもらいたい。一度事業を止めると技術や事業を行う基盤が失われ、復活させるのに大きな労力を要する。 	<p>厳しい経営環境の中でも市民の皆さまの重要なライフラインである上下水道を未来に継承・発展させていけるよう、あらゆる観点で経営基盤強化に取り組み、建設改良の財源となる積立金を確保することで事業を着実に推進していきます。</p>

主な御意見（要旨）	本市の考え方
<p>【民間活力の導入に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間委託を進めてコストダウンなども推進してほしい。 ・業務執行体制の見直しを民間活力導入で対応するとしても、民間への発注額やそこに占める人件費が直営よりも安価になるか確認すべき。 ・建設・更新の事業を継続するため、民間事業者の資金力を借りるPFI方式を積極的に取り入れて財源の平準化を図ってはどうか。 ・水道事業は民営化しないでほしい。 	<p>事業全体に関する計画の策定、事業の進捗管理、市民の安全・安心の確保等、上下水道事業の根幹となる業務については公営企業が自らの責任の下で実施する必要があると考えています。</p> <p>一方で、この間も定型的な業務等で、民間に委託してもサービス水準が低下しないものは積極的に民間委託を進めてきたところであり、後期プラン期間においても、民間事業者のノウハウや創意工夫を生かしながら、事業全体に要する経費削減や業務執行体制の効率化を進めます。</p>
<p>【業務執行体制の見直しに関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政の報告で、効率化、強化というワードが多用されるが、できるのであればすぐにやってほしい。 ・公営企業としての経営努力を進める必要がある。 ・職員定数の削減でサービスに支障が出ないよう、適切に管理してほしい。 	<p>平成8年度以降、6期にわたる効率化推進計画に基づき、絶え間なく業務執行体制の効率化を進めてきたところであり、後期プラン期間においても、今後の厳しい経営環境見通しを踏まえ、新たな効率化推進計画を策定し、各取組を効率的に推進するための体制を構築することで、経営基盤の強化につなげていきます。</p>
<p>【保有資産の有効活用に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用されていない資産の有効活用の検討は積極的に進めていってほしい。 ・保有資産の有効活用は一時的な収入にしかないことを踏まえて丁寧に検討してほしい。 	<p>前期プラン期間は、組織の再編や事業所の集約により生じた空き施設や未利用地について、全庁的に活用方法を検討のうえ、売却・貸付を進めてきました。</p> <p>後期プラン期間においても、引き続き丁寧な検討を行いながら当該資産において最も効果の高い活用を進め、経営基盤の強化を図っていきます。</p>
<p>【水道料金・下水道使用料に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厳しい経営状況であることで大変かと思うが、物価高で市民生活も苦しい状況なので、安易に値上げされないよう、合理化や収益の増加にしっかりと取り組んでほしい。 ・今後、水道料金は値上がりするのだろうと覚悟はしているし仕方がないことだと思う。しかしながら値上げは、不要な支出の削減や経営の効率化等を行った後の最後の手段であってほしいと思う。 ・水道を維持するために、必要であれば、受益者負担の割合を増やすことを検討するなど、 	<p>後期プラン5か年の見通しは、新型コロナの影響による減収からの回復時期や新たな生活様式の定着の度合い、社会情勢等の物価への影響など、収入面・支出面共に多くの変動要素が含まれ、今後の経営状況が更に厳しくなることも想定されますが、料金改定については、あらゆる経営努力を尽くしたうえで、将来の更新需要や社会情勢、世代間の公平性、市民生活への影響等を十分に考慮し、慎重に実施を判断すべきであると考えています。</p> <p>令和4年度からは、改めて将来の適正な事業費規模を把握する観点から、今後老朽化が進んでいく管路施設を対象に事業量・事業費の更な</p>

主な御意見（要旨）	本市の考え方
<p>子どもやその先の未来に住む方に皺寄せがいかないような安定的な企業経営をお願いしたい。</p>	<p>る平準化に向けた検討に着手しました。令和5年度以降はこれらの取組を進め、将来必要となる事業費の長期的な見通しの検証、及び世代間の公平性等を考慮した積立金（資産維持費等）の必要額の再検証を行うとともに、市民の皆さまの重要なライフラインを未来に継承・発展させていくために、一層の経営の効率化や増収のための方策など、あらゆる観点で更なる経営基盤強化の取組について検討を進めます。</p>

5 その他の御意見（3件）

主な御意見（要旨）	本市の考え方
<p>【水環境の保全等に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都の自然(川)や日本の海の生物多様性の保全に関する取組についても記載してほしい。 ・ 他の自治体と協力し、水源である琵琶湖の水環境を整え、市民の人々に今まで以上に安全・安心できれいな水を提供できるようにすることが重要である。 	<p>京の水ビジョンでは、琵琶湖・淀川水系の中流域に位置する大都市として市内河川の水環境はもとより、下流域に位置する都市の水道水源や大阪湾、瀬戸内海の水環境を保全するうえで重要な役割を担っていることを説明し、9つの方針の1つに「下水をきれいにして市内河川や下流域の水環境を保全します」を掲げて下水処理水質の維持・向上や水環境保全センター施設の再構築、合流式下水道の改善に取り組んでいます。</p> <p>また、琵琶湖周辺や下流の淀川流域の関係者との情報交換や協働・連携を実施し、パートナーシップの強化を図っています。</p> <p>後期プラン期間においてもこうした取組を継続することで、引き続き琵琶湖・淀川流域全体の水環境の保全に努めます。</p>

(C) 今後の取組の推進に際して参考とするもの

1 骨子案全体、背景・課題 (25 件)

主な御意見 (要旨)

- ・大規模地震が起こっても、水道・下水道を利用できるようになるのは、住民からしたらとても安心だと感じた。
- ・上下水道局の経営環境から、これから力を入れて取り組んでいく内容について、非常にわかりやすくまとめられていると思う。
- ・どのような意見を市民に求めているかさっぱり分からない。耐震化などを進めるのは当たり前である。このような計画を労力を掛けて策定するのはお役所仕事であり、無駄なことを続けるから財政難になる。
- ・収入が減り、支出が増えており、また、経年劣化も進んでおり、非常に厳しい状況だと思った。知恵を絞ってはいるようだが、何となく限界もあるように感じる。将来のこともあるので、まずは、そういった状況を私たちも理解していく必要があると思う。
- ・上下水道局の経営プランの規模や予算の高額さに驚いた。市民サービスにおける上下水道事業の立場が重要なものであるからこそ、独立採算なのだと感じた。節水が勧められている時代で、水の使用量が少し減ったとしても、水道設備を大きく削れるわけではないことから、上下水道局には厳しい時代なのかなと思う。
- ・水資源の有効活用や公共インフラを整備し、水資源を中核とした新たな都市のあり方を模索していくことが重要であり、将来の京都市のまちづくりや地域活性化、観光などの幅広い産業の発展に繋がるような事業が今後とも求められると考える。

2 視点①京の水をみらいへつなぐ (16 件)

主な御意見 (要旨)

- ・新たに上下水道を引くことは可能な限り控えるべき。更新など次世代の負担に繋がりにかでない。
- ・どのレベルでの耐震性があるものかを考えているのか、定量面を踏まえてご教示頂けるとより必要性や納得感を感じやすいと思う。
- ・上下水道局が作っている備蓄用の水は必要ない。コストがいくら掛かっているのか。利益が上がっていないのであれば民間に任せるべき。
- ・水道事業の広域化について、他市町への強要にも、他市町からの強要にも反対する。
- ・新技術を開発し、低コストで水を供給できる仕組みを作ってほしい。

3 視点②京の水でころをはぐくむ (27 件)

主な御意見 (要旨)

- ・ポケモンマンホールのような魅力あるマンホールを費用を掛けずに増やしてほしい。
- ・新型コロナの影響で、蹴上浄水場のつつじや鳥羽水環境保全センターの藤が見られないのは残念です。再開を楽しみにしています。
- ・住民対象の対面説明会やインターネットの説明会をもっと多く開催し、周知すべき。
- ・再生エネルギーは行政で取り組むべき問題であり、公営企業(料金採算)で積極的に実施すべき問題ではないと思う。
- ・太陽光発電や小型水力発電に取り組まれていることをホームページで知った。鴨川や桂川などで発電することはできないのか。

4 視点③京の水をささえつづける（36件）

主な御意見（要旨）

- ・職員の技術力がどのように役立っているのか、または承継されないことによる不具合が何なのか。
- ・10年間で100億円を超える大幅な減収とあるが、各事業で見れば1年間で5億円の減収であり、直ちに赤字に転落するようなインパクトはないのではないか。
- ・ライフラインと言えれば何でも通ると考えているのか。民営化を含めた徹底的な改革が必要だ。
- ・民間活力の導入とは行政的な考え方ではできない面を導入する趣旨であり、経費節減のために民間活力を導入する論理は間違っている。民間であれ公務員であれ働き手は「人」であり、民間委託により費用を下げられると考えているのであれば将来的に破綻を招く原因になるのではないか。
- ・できる限りの経営努力や無駄な投資を減らすことは必要だと思うが、水の使用量は今後減っていき、施設の老朽化は進むのであれば、料金水準を見直すことは必然だと思う。将来世代にツケを残すことのないように、利用者に納得してもらえる説明をお願いしたい。
- ・コストダウンのためには都市計画としてなるべく居住区を集約していくなどして、事業をスマート化すべきではないか。それが難しいのであれば、必然的に料金の値上げに繋がる未来しかないと思う。
- ・「全会計連結の視点」とあるが、上下水道事業は独立採算ではないのか。負担の付け替えとしか思えない。
- ・大雨対策は防災対策であり、料金収入で行うのはおかしいと思う。財政危機でも、市役所が責任を持つべき。

5 その他の御意見（24件）

主な御意見（要旨）

- ・新型コロナの影響や物価高騰により生活が圧迫されているので水道料金の減免を検討してほしい。
- ・人口減少に伴い、水需要が減少するのは仕方ないが、一方で企業や農業でも水は多く使われており、例えば、京都市で農業や畜産をしてくれる個人や企業の誘致ができないかと思う。
- ・事業者との連携に当たっては、適正な対価という視点も大事にしてほしい。
- ・京の水道、下水道を守り続けるため職員の皆様が日夜問わず働き続けておられることに市民として感謝している。